ドレミファ器楽

フル・スコア

SK-52

モーツアルト

18世紀のサロンにて

小島里美　編曲

モーツアルトの数々の名曲の中で、クラシックやピアノ曲ファンに限らず、多くの人々に親しまれている曲「18世紀のサロンにて」。正式には、ピアノソナタK•V545第一楽章である。ここではその有名なテーマを用い、器楽合奏用に編曲してある。

〔演奏上の注意〕イントロは明るく元気よく。4小節目のアコーディオンのスケールは、テナーからソプラノまで、一つの流れになるようにする事。ソプラノは、一気にスケールを弾く事が難しい場合、上手な人のソロにする、或いは　のように分けて演奏するとよい。Ⓐからピアノのテーマである。5小節目から、3・4拍目のメロディーが木•鉄琴に移り、原曲とは多少違ってくるが、ピアノはできれば経験者に担当してもらった方がよいだろう。Ⓑの5、Ⓖの5小節目からあるアコーディオンのスケールも、イントロ同様、一つの流れになるようにする事。

尚、ここでは打楽器の編成にも注意して欲しい。ティンパニーが単独のパートになっており、できれば4台欲しいが、3台の時は"ＧＣＤ"にチューニングし、Ｆの音は小音符の方の音をたゝけばよい。又、全くなくても、全体演奏にはそれ程差しつかえない。打楽器のパートには、シンバル・トライアングル・タンバリンが含まれており、トライアングルとタンバリンが、同時に出てくる所があるので、2人で分けるか、1人の場合は、トライアングルをあらかじめ譜面台に吊しておき、右手でトライアングル、左手でタンバリンを鳴らすとよい。又、1種類の楽器を数個用いる必要は全くない。又、小太鼓のパートに、ドラムセットを想定して、ハイハットシンバルも書かれており、これは是非加えて欲しい。しかしない場合には、小太鼓2台（2人）を用い1人はハイハットシンバルの所を、ブラシで小太鼓を小さくたゝくようにすればよいだろう。

アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、及び木琴、鉄琴に於て和音が書かれてある箇所は、和音弾きをせず、各々が一つずつ音を弾き、和音をつくって下さい。

ミュージックエイト

(♩=116)

フルート
(無くても演奏可能)

ソプラノリコーダー

鍵盤ハーモニカ

ソプラノアコーディオン

アルトアコーディオン

テナーアコーディオン
(オクターブ上に記譜)

バスアコーディオン

木琴

3台の時は(小音符)の方を叩く

C　Am　Dm / D　G　G

ピアノ

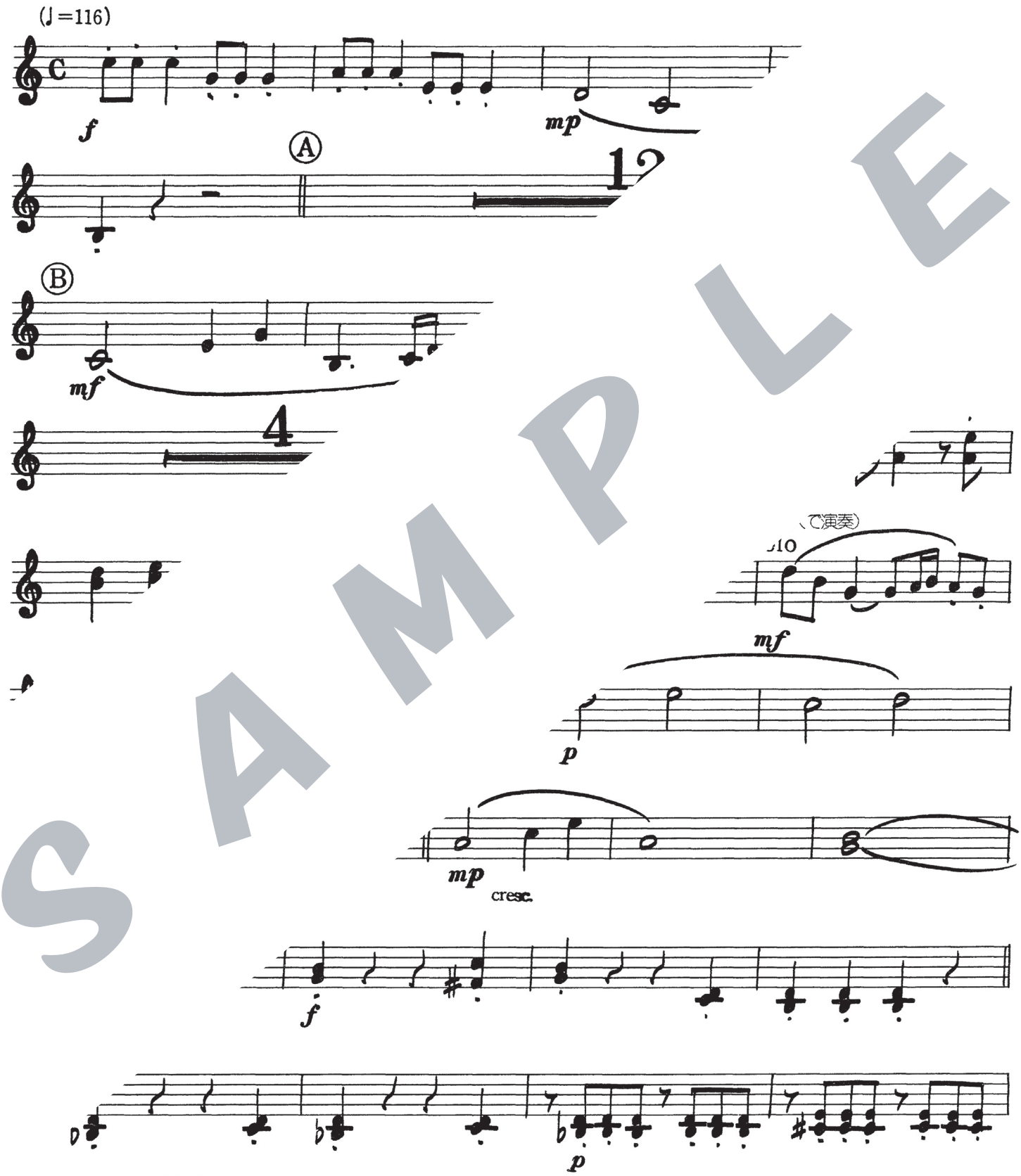
SAMPLE

モーツアルト

18世紀のサロンにて

小島里美

鍵盤ハーモニカ



SAMPLE